

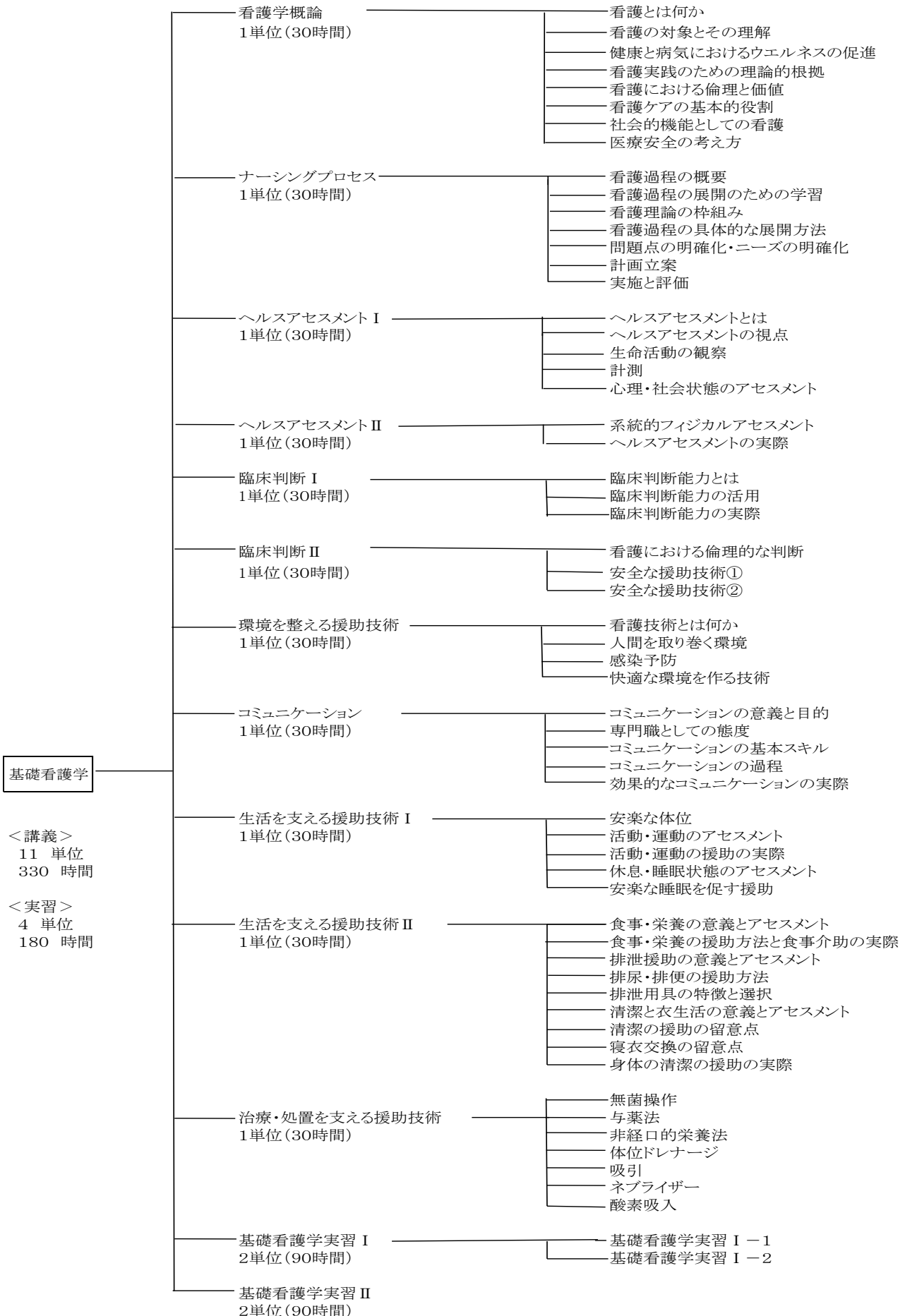
専門分野

第一看護学科 基礎看護学

目 的 看護の概念を理解し、専門職業人としてさまざまな看護活動の場における看護実践に必要な基礎的能力を養う。

- 目 標
- 1 看護・人間・健康・環境の概念が理解できる。
 - 2 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割が理解できる。
 - 3 看護実践に必要な基礎的技術・知識・態度を習得する。
 - 4 対象の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護が安全、安楽に実践できる基礎的能力を習得する。
 - 5 専門職業人としての倫理に基づいた行動ができる基礎的能力を習得する。

基礎看護学 構成図



授業科目	看護学概論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1 年次 4 月～7 月
				時間数	3 0		
目的と目標	看護の本質をとらえ対象に看護実践をする上で必要な基礎知識と看護職者の責務について理解する。 1 看護の基本概念としての人間・健康・環境・看護が理解できる。 2 生活者としての人間を対象とした、看護実践に必要な基礎的知識を習得する。 3 看護職者としての責務について理解できる。 4 医療事故防止の意義を理解し、リスク感性を高めることの重要性がわかる。						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	看護とは何か	(1) 看護とは (2) 看護の定義と特性 (3) 看護師の役割 (4) 看護教育制度 (1) 生活者としての人間 (2) 成長・発達の概念 (3) 健康障害を持つ対象の理解 (4) ストレスと適応 (1) 健康の概念 (2) 健康と病気に影響する要因 (3) 健康の増進と病気の予防 (1) 近代から現代の看護、現代社会における看護のあり方 (2) 看護理論とは (3) 看護の概念 (4) 人間の基本的ニーズ (1) 看護倫理とは (2) 看護師の意思決定の基盤 (3) ジレンマと倫理的課題 (1) コミュニケーターとしての役割 (2) 教育者およびカウンセラーとしての役割 (3) 研究的取り組み (4) 看護における基本的援助技術 (5) 質の高い看護ケアを行うために (1) 保健・医療・福祉システム (2) 看護ケアのマネジメント (3) 看護における法的側面 (1) ヒューマンエラーと医療安全対策の意義 (2) 危険予知レポートの書き方 (1) 筆記試験			講義	専任教員 ()	
2	看護の対象とその理解						
3	健康と病気におけるウェルネスの促進						
4	看護実践のための理論的根拠						
5							
6							
7							
8							
9							
10	看護における倫理と価値						
11							
12	看護ケアの基本的役割						
13							
14	社会的機能としての看護 (1 時間)						
15	医療安全の考え方						
	試験 (1 時間)				試験		
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	ナーシング・グラフィカ 看護学概論 (MC メディカ出版) 看護六法 (新日本法規) 看護覚え書 (現代社) 看護の基本となるもの (日本看護協会出版会) 実践に生かす看護理論 1 9 (サイオ出版) よくわかる看護者の倫理綱領 (照林社) 看護学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 (医学書院)						
事前学習 受講要件	適宜、提示する課題について、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	ナーシングプロセス	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1 年次 7 月～1 2 月
				時間数	3 0		
目的と目標	看護を実践するために必要な科学的思考のプロセスを理解する。 1 看護過程の意義、概要が理解できる。 2 看護過程の構成要素の定義、その内容について説明できる。 3 ゴードンの枠組みに沿ってデータを整理し、分析の結果から全体像を描くことができ、看護上の問題が抽出できる。 4 アセスメントに基づいた計画立案ができ、評価の視点が理解できる。						
回数	学習課題	内 容				方法	担当教員
1	看護過程の概要	(1) 看護過程とは (2) 看護過程の構成要素 (3) 5つの構成要素の関係性				講義	専任教員 ()
2	看護過程の展開のための学習	(1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) リフレクション				講義	
3	看護理論の枠組み	(1) 看護理論家の枠組み (2) ゴードンの機能的健康パターン (3) NANDA 看護診断				講義	講義・演習 (事例展開)
4	看護過程の具体的な展開方法	(1) 情報の収集と分析 ①情報とは ②情報収集の方法 ③情報の整理と分析					
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11	問題点の明確化・ニーズの明確化	(1) 問題点の種類と表現方法 (2) 顕在的・潜在的問題点 (3) 問題点・ニーズの優先順位の決定				講義・演習	
12	計画立案	(1) 期待される成果の設定 (2) 看護計画の立案				講義・演習	
13							
14	実施と評価	(1) 計画実施の留意点 (2) 評価の視点				講義・演習	
15	(3 時間)						
	試験 (1 時間)	(1) 筆記試験				試験	
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	系看 専門 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 (照林社) NANDA-I 看護診断 定義と分類 (医学書院) 実践に生かす看護理論 1 9 (サイオ出版) 看護過程に沿った対症看護 (学研)						
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	ヘルスアセスメントⅠ	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 7月～11月
				時間数	30		
目的と目標	ヘルスアセスメントの知識、技術を活用し臨床判断ができるための基礎的能力を養う。 1 ヘルスアセスメントにおける観察の意義を理解することができる。 2 バイタルサイン（呼吸・脈・血圧・体温・意識）を正確に測定することができる。 3 バイタルサイン（呼吸・脈・血圧・体温・意識）測定値の記録・報告ができる。 4 得た情報を言語にして伝達する方法を身につけることができる。						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	ヘルスアセスメントとは	(1) ヘルスアセスメントとは ①ヘルスアセスメントが持つ意味 (2) ヘルスアセスメントにおける観察			講義	専任教員 ()	
2 3	ヘルスアセスメントの視点	(1) アセスメントに必要な技術 ①問診②視診③触診④打診⑤聴診			講義・演習		
4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	生命活動の観察 (20時間)	(1) 呼吸・脈拍・血圧・体温・意識の調節のメカニズムと影響因子 (2) 呼吸・脈拍・血圧・体温・意識の異常とそれぞれが示す意味 (3) バイタルサイン測定の実際 (4) バイタルサイン測定の計画立案 ①計画立案とその根拠 (5) バイタルサイン測定の実施・記録・報告 ①一連の計画に沿った実施・報告 ②実施後の振り返り・考察・計画修正 ③技術チェック◆			講義・演習	◆技術チェック	
14	計測（１時間）	(1) ヘルスアセスメントにおける計測			講義・演習		
15	心理・社会状態のアセスメント	(1) 心理側面のアセスメント (2) 社会側面のアセスメント			講義		
	試験（１時間）	(1) 筆記試験					
評価方法	筆記試験 100点						
教科書 参考文献	系看 専門 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院） 完全版 ビジュアル 臨床看護技術ガイド（照林社） フィジカルアセスメントガイドブック - 目と手と耳でここまでわかる（医学書院） フィジカルアセスメントワークブック - 身体の仕組みと働きをアセスメントにつなげる（医学書院）						
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	ヘルスアセスメントⅡ	担当教員	専任教員☆ ①	単位数	1	時期	1 年次 1 1 月～1 月
			外部講師☆ ②	時間数	3 0		
目的と目標	ヘルスアセスメントの知識、技術を活用し臨床判断ができるための基礎的能力を養う。 1 身体各部を系統的に観察する方法を身につけることができる。 2 ヘルスアセスメントの実際を理解できる。 3 得られた情報を正確にアセスメントできる。						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	系統的フィジカルアセスメント (19 時間) ヘルスアセスメントの実際 試験 (1 時間)	(1) 胸部における「場所」の示し方 ① 水平・垂直位置の同定 (2) ケアにつなげるフィジカルアセスメント ① 呼吸器系 ② 循環器系 ③ 消化器系・腹部 ④ 筋・骨格系 * ⑤ 神経・感覚器系 (3 時間) (1) フィジカルアセスメントの実際 ① 事例演習 ② デブリーフィング (1) 筆記試験			講義・演習 講義・演習 演習 試験	専任教員 () 外部講師 *(理学療法士) 専任教員 () 専任教員 () 試験	
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	系看 専門 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② (医学書院) 完全版 ビジュアル 臨床看護技術ガイド (照林社) フィジカルアセスメントガイドブック - 目と手と耳でここまでわかる (医学書院) フィジカルアセスメントワークブック - 身体の仕組みと働きをアセスメントにつなげる (医学書院)						
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②理学療法士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	臨床判断Ⅰ	担当教員	専任教員☆ ①	単位数	1	時期	2年次 4～7月
				時間数	30		
目的と目標	看護を実践するために必要な考え方を学び、変化する対象の看護に生かす思考を学ぶ。 1 変化する対象の健康状態、ニーズに気づき、解釈できる。 2 状況に応じた反応を行う実践のプロセスが理解できる。 3 行ったケアを省察し次の行動に生かす考え方が理解できる。						
回数	学習課題	内 容				方法	担当教員
1 2	臨床判断能力とは	(1) 臨床判断能力とは (2) 臨床判断プロセスとは ① 気づく ② 解釈する ③ 反応する ④ 省察する				講義	専任教員 ()
3 4 5 6 7 8 9	臨床判断能力の活用	(1) 「気づく」・「解釈する」・「省察する」ことを促すための演習①②③ ① 「排泄」行動に課題のある患者 ② 「清潔」行動に課題のある患者 ③ 「食」行動に課題のある患者				講義・演習	
10 11 12 13 14	臨床判断能力の活用の 実際 事例演習（9時間）	(1) 事例の状況に「気づき」・「解釈する」 ① 呼吸器疾患の疾患が異なる患者（慢性呼吸不全、喘息、肺炎など）に起こっていることを観察する。 ② 症状の現れ方をグループ共有し、共通点や相違点を学習する				講義・演習	
15	試験（1時間）	筆記試験				試験	
評価方法	筆記試験（70点） レポート試験（30点） ＊再試験は筆記試験70点、レポート試験30点で評価する。						
教科書 参考文献	系看 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④（医学書院） 看護過程に沿った対症看護（学研）、疾患別 看護過程の展開（学研）						
事前学習 受講要件	適宜提示したものに対して、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	臨床判断Ⅱ	担当教員	専任教員☆ ① ②	単位数 時間数	1 30	時期	3年次 6月～10月
目的と目標	変化する対象の健康状態、状況をとらえ、リスクアセスメントをしたうえで対象の状況に合わせた看護を实践できる。 1 対象の権利擁護のために倫理的判断ができ、安全を保障するための方法が理解できる。 2 事例患者の「場」の「状況・状態」を適切に判断し、看護の優先度を考えることができる。						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1 2 3 4	看護における倫理的な判断	(1) 援助実施における倫理的判断 (事例検討)			講義・演習	専任教員 ()	
5 6 7 8 9 10	安全な援助技術① (11 時間)	(1) 対象の状況の把握 患者の状況を捉え必要な看護を判断し実践する			講義・演習	専任教員 ()	
11 12 13 14 15	安全な援助技術② 複数患者事例 (10 時間)	(1) 対象の状況の把握 複数患者の状況を捉え必要な看護を判断し実践する			講義・演習		
	試験 (1 時間)	(1) 筆記試験			試験		
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	適時指示する。						
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	環境を整える援助技術	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1 年次 4 月～7 月
				時間数	3 0		
目的と目標	環境を整える看護技術の意義を理解し、科学的根拠をもとに対象の安全・安楽・快適さを考えた環境への援助ができる知識、技術、態度を養う。 1 看護における技術の考え方を理解し、技術を熟達させることの意識を高める。 2 看護における環境調整の意義と環境条件が理解できる。 3 対象の状態に応じて快適な環境をつくるための技術・態度を身につける。						
回数	学習課題	内 容			方法		担当教員
1	看護技術とは何か	(1) 基礎看護学の構造とクリティカルシンキング (2) 看護技術とは (3) 看護技術の特徴 (4) 看護技術を実践するための要素			講義		専任教員 ()
2 3	人間を取り巻く環境	(1) 人間を取り巻く環境 ① 外部環境 ② 内部環境 (2) 環境調整の意義 (3) 環境因子と看護 (4) 環境調整の援助方法			講義・演習		
4							
5	感染予防	(1) 感染防止の基礎知識 (2) 標準予防策 (3) 感染性廃棄物の取り扱い			講義・演習		
6 7 8 9 10 11 12 13 14	快適な環境を作る技術 (19 時間)	(1) 療養環境として望ましいベッドの条件 (2) 病床の作り方 ① ベッドメイキング ② シーツ交換 ◆			講義・演習 ◆技術チェック		
15	試験 (1 時間)	(1) 筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験 100 点					
教科書 参考文献		系看 専門 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② (医学書院) 系看 専門 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院)					
事前学習 受講要件		適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。					
☆担当教員の 実務経験		看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	コミュニケーション	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1 年次 4 月～1 1 月
			外部講師 伊藤 享子	時間数	3 0		
目的と目標	対象と良好な援助的な関係を成立させるための知識、技術、態度を養う。 1 看護における相互作用とコミュニケーションの意義が理解できる。 2 効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度がわかる。 3 援助過程において対象者の尊厳と権利を擁護する関わりについて理解できる。 4 共感的理解を深める方法がわかる。 5 望ましい対人関係について理解し、対人関係を振り返る方法を習得することができる。						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	コミュニケーションの意義と目的	(1) コミュニケーションとは (2) 看護におけるコミュニケーション			講義	専任教員 ()	
2	専門識者としての態度	(1) 患者応対接遇講座			講義	外部講師 (伊藤 享子)	
3	コミュニケーションの基本スキル	(1) 関係構築のための基本姿勢			講義・演習	専任教員 ()	
4		(2) デブリーフィング			講義		
5		(3) 自己紹介をしよう					
6	コミュニケーションの過程	(1) コミュニケーションの構成要素と成立過程			講義		
7		(2) 傾聴力とは					
8		(3) アサーティブ					
9	効果的なコミュニケーションの実際	(1) プロセスレコード			講義・演習		
10		(2) コミュニケーション計画演習			講義・演習		
11		(3) 看護と尊重			講義		
12		(4) 実習場面でのコミュニケーションの実際			演習・発表		
13		(3 時間)			(基礎 I ～ 2 後)		
14							
15	試験 (1 時間)	(1) 筆記試験			試験		
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	系看 専門 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) はじめての看護実習 基礎からステップアップ看護コミュニケーション (へるす出版) よくわかる看護職の倫理綱領 (照林社)						
事前学習 受講要件	適宜提示した内容について、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	生活を支える援助技術Ⅰ	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②理学療法士	単位数	1	時期	1 年次 5 月～ 9 月
				時間数	3 0		
目的と目標	活動・休息の援助を安全に実施するための知識、技術を習得する。 1 ボディメカニクスの基礎を理解し、ボディメカニクスを活用した姿勢と動作ができる。 2 活動・運動、休息・睡眠のアセスメントのための基礎知識が理解できる。 3 安全安楽な活動・運動の援助、睡眠を促す援助ができる。						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1 2	安楽な体位	(1) 安楽とは (2) 安楽な体位とは (3) 体位の種類と身体への影響 (4) 同一体位の有害性・同一体位体圧 (5) 安楽な体位の保持			講義・演習	専任教員 ()	
3	活動・運動のアセスメント	(1) 基礎代謝、活動代謝 (2) 活動・運動の客観的指標 (3) 活動・運動を阻害する要因			講義・演習		
4 5 6 7 8 9 10	活動・運動の援助の実際	(1) 活動・運動の援助方法 ① 水平移動 ② 体位変換 ③ 移乗動作 ④ 移送（車いす・ストレッチャー） ⑤ 歩行介助			演習	外部講師 (理学療法士) 専任教員 ()	
11	休息・睡眠状態のアセスメント	(1) 睡眠時間と睡眠の分類 (2) 睡眠を阻害する要因			講義		
12 13 14	安楽な睡眠を促す援助（7 時間）	(1) リラクゼーションの方法 ① 電法 (2) 足浴 手浴			演習		
15	試験（1 時間）	(1) 筆記試験			試験		
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	系看 専門 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院） 系看 専門 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） 完全版 ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）						
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。						
☆担当教員 の実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②理学療法士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	生活を支える援助技術Ⅱ	担当教員	専任教員☆	単位数 時間数	1 30	時期	1年次 10月～2月
目的と目標	食事・排泄・清潔の援助を安全、安楽に実践するための知識・技術・態度を習得する。 1 食事・排泄・身体を清潔にする意義について、生理的・心理的・社会的側面から考えることができる。 2 食事及び栄養・排泄・身体の清潔・衣生活を調整する能力に関するアセスメントの方法がわかる。 3 食事介助の体験から安全・安楽な食事摂取方法がわかる。 4 排泄の援助方法と根拠、留意点がわかり、援助方法を習得することができる。 5 身体の清潔援助の目的、方法と根拠、留意点がわかり、援助方法を習得することができる。						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	食事・栄養の意義とアセスメント	(1) 食事・栄養の意義 (2) 食事に関する生理的メカニズム (3) 食行動のアセスメント (4) 摂食・嚥下機能のアセスメント (5) 栄養状態のアセスメント			講義	専任教員 ()	
2 3	食事・栄養の援助方法と食事介助の実際	(1) 食欲不振がある場合 (2) 食事動作に障害がある場合 (3) 摂食・嚥下機能障害のある場合 (4) 臥床状態での食事介助の体験と、安全でおいしく楽しい食事への考察 (5) 対象のアセスメントと、食事介助の実施 (6) 口腔ケアの実際(2時間)			講義・演習	歯科衛生学科専任教員 専任教員 ()	
4	排泄援助の意義とアセスメント	(1) 排泄の留意点 (2) 排泄行動のアセスメント ① 排尿・排便状況の客観的指標 ② 排尿のアセスメント ③ 排便のアセスメント (3) 本人の目標と満足度 (4) 水分出納のアセスメント			演習		
5	排尿・排便の援助方法	(1) 自然排尿を促す方法 (2) 自然排便を促す方法 (3) 導尿 演習は治療・処置に伴う技術で実施 (4) 摘便*1 (5) 浣腸*2 (グリセリン浣腸・高圧浣腸)			講義	*老年看護学実習で学ぶ	
6 7	排泄用具の特徴と選択	(1) ベッド上で尿器・便器を用いる (2) ポータブルトイレを用いる (3) トイレへ行く (4) おむつの使用 (5) 膀胱留置カテーテル (6) 陰部洗浄・オムツ交換(2時間)			講義・演習		
					講義・演習		

回数	学習課題	内 容	方法	担当教員	
8	清潔・衣生活の意義と アセスメント	(1) 清潔の意義 (2) 皮膚粘膜の生理的メカニズム (3) 身体の清潔のアセスメント ① 清潔状態のアセスメント ② 清潔に対する認識・習慣 ③ 清潔行動のアセスメント	講義	専任教員 ()	
9	清潔の援助の留意点	(1) 入浴 (2) 清拭 (3) 部分浴 ★生活を支える援助技術Ⅰで実施 (4) 口腔ケア ★食事介助で実施 (5) 陰部洗浄 ★排泄で実施	講義・演習		
10	寝衣交換の留意点	(1) 寝衣交換	講義・演習		
11	身体の清潔の援助の 実際（9時間）	(1) 寝衣交換と全身清拭（4時間）	講義・演習	専任教員 ()	
12		(2) 洗髪（3時間）	講義・演習		
13					
14					
15					
	試験（1時間）	(1) 筆記試験	試験		
評価方法	筆記試験 100点 （1～3回：20点、4～7回：30点、8～15回：50点）				
教科書 参考文献	系看 専門 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） 完全版 ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）				
事前学習 受講要件	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。				
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。				

授業科目	治療・処置を支える 援助技術	担当 教員	専任教員☆	単位 数	1	時期	1 年次 1 月～3 月
				時間 数	3 0		
目的と目標	治療・処置に伴う援助を安全・安楽に実施するための技術・態度を習得する。 1 治療・処置の目的、適用、方法、合併症を理解し、対象の状態に合わせて安全で安楽な治療・処置に伴う援助を提供するための基本的知識、技術、態度を習得することができる。 2 感染予防の意義・原則および清潔・不潔の概念を理解し、無菌操作ができる。 3 非経口的栄養法・体位ドレナージ・吸引・ネブライザー・酸素吸入の種類と適応・留意点が理解できる。 4 与薬についてその目的・用途・方法・安全管理のあり方を理解し、与薬を受ける患者に対し、看護援助の方法が理解できる。						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1 2 3 4 5 6	無菌操作（12 時間）	(1) 清潔操作 ① 創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法） ② 無菌操作 ③ 導尿			講義・演習	専任教員 ()	
7 8 9 10 11	与薬法（9 時間）	(1) 薬物適用の援助 (2) 注射の援助 (3) 輸血 (4) 注射の実際 ・ 静脈内注射 ・ 静脈採血 ・ 筋肉注射			講義・演習	専任教員 ()	
12 13	非経口的栄養法 （3 時間）	(1) 非経口的栄養法の種類と適応 (2) 経鼻胃チューブの挿入と固定方法 (3) 栄養剤の注入方法 (4) 中心静脈栄養			講義・演習	専任教員 ()	
14	体位ドレナージ 吸引（3 時間）	(1) 体位 (2) 呼吸訓練法 (3) 排痰法 (4) 吸引の目的・適用 (5) 吸引の方法 (6) 吸引の合併症 (7) 吸引の実施			講義・演習	専任教員 ()	
15	ネブライザー 酸素吸入	(1) 吸入の目的・適用 (2) 吸入方法の種類と方法と実施 (3) 酸素療法の適用 (4) 酸素療法の合併症 (5) 酸素療法の種類 (6) 酸素吸入の方法と実施					
	試験（1 時間）	(1) 筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験 100 点（1～6 回：40 点、7～11 回：35 点、12～15 回：25 点）					
教科書 参考文献		系看 専門 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院） 系看 専門 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） 完全版ビジュアル 臨床看護技術ガイド（照林社）					
事前学習 受講要件		適宜、提示する課題について期限を厳守して提出する。					
☆担当教員の 実務経験		看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					